

令和2年度 福島県立須賀川支援学校経営・運営ビジョン



福島県立須賀川支援学校
健康 友愛 感謝

—教 育 目 標—

- 1 生命の大切さを知り、たくましく生きる意欲を育てる。
- 2 自ら課題を見つけ、自ら学び主体的に判断し行動できる資質や能力を育てる
- 3 感謝の心を育み、信頼と敬愛に満ちた思いやりの心を育てる

今年度の努力目標

児童生徒のよりよい生き方の実現に向けて、児童生徒一人一人の病状や障がいの状態に応じた指導の充実を図るとともに、育成を目指す資質・能力を明確化に努めながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業実践を行う。

一人一人を大切にする学校

校長 佐藤 清悦

本校は昭和48年、病気治療中の子どもの学習を保障する場として教育を始めました。以来、その理念と歴史を大切にしながら、病弱教育校としての役割を担ってきました。新しい時代を生きる子どもたちのために、以下のビジョンのもと、児童生徒の笑顔あふれる学校を目指します。

1 子どもの権利を尊重します

誰もが自分の思いや願いを持っています。しかし、それを適切に表現できない子どももいます。子どもの気持ちを身体症状や行動も含めて真摯に読み取り、謙虚に耳を傾けてその理由や背景を適切にとらえ、人格を尊び、児童生徒を大切にしたい教育を行います。

2 子どもの病気を理解します

本校で学ぶ児童生徒は、多様な病気と向き合っています。教員研修や医療との連携により、一人一人の病気を理解し、可能な配慮のもとに適切な教育を行います。

3 子どもの学びを保障します

ICT 活用も含めた合理的配慮のもと、授業の改善・充実に図り、一人一人に応じた学び方に可能な限り対応し、自分らしい生き方のための基礎となる力の育成を図ります。

4 子どもの理解を広げます

関係機関や地域との連携を進めながら病弱教育の理解啓発に努め、病気と向き合う児童生徒がより良い生き方ができるような共生社会の形成に寄与します。

子どもの権利を尊重します

子どもの病気を理解します

子どもの学びを保障します

子どもの理解を広げます

○確かな学力の育成

各教科等において目指す資質・能力を育むために、児童生徒の特性や病気の状態に適切に配慮しながら主体的・対話的で深い学びの視点を共有して授業改善に取り組み、確かな学力を育てていきます。

○豊かな心の育成

地域の人々との交流や学校間交流・居住地校交流、ボランティア活動などの多くの人とのかかわる経験や道徳の授業を通して、自己理解・他者理解を促し、明るく強く、心豊かで思いやりのある児童生徒を育てていきます。

○健やかな体の育成

家庭や関係機関との連携を密にするとともに、自立活動や健康・安全に関する学習を充実させることによって、児童生徒自身が病気により生じる障がいや制約を理解して自ら健康管理に取り組んだり、自分のあり方や生き方を考えたりするための基盤をつくります。

○豊かな生活の実現

地域の社会資源を活用した校外学習や産業現場等における実習、外部講師による職業教育や体験的な活動の工夫及び高等部における学校設定科目「職業と生活」の実践等を通して、自己有用感を高め、自分の将来に夢や希望をもち主体的に行動しようとする児童生徒を育てていきます。

○教師の専門性の向上

研修や研究会への参加等を通して「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた病弱教育における授業づくりや、ICT を活用した児童生徒にわかる授業づくりについて学んでいくことで、病弱教育校としての専門性の向上を図ります。

○センター的機能の充実

教育支援アドバイザーを中心に就学・進学等における適切な情報の引継ぎのための支援体制の構築を目指します。
地域のニーズを踏まえた研修会を開催し、地域と共に学び合いながら、特別支援教育の理解啓発や専門性の向上を図ります。